外も息を吹き返しつつありますが

が来日され、人の往来も戻り国内今日では、海外からの多くの観光

界に目を向ければ、

侵略戦争・飢

暖化による異常気象からの

伊賀東照宮崇教会報

発行所

伊賀東照宮社務所

三重県伊賀市老川 1103-2

TEL 0595-55-2512

と挨拶

三 稲葉 喜代

今こそ日本は、

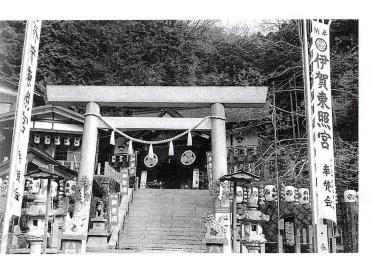
神宮様

上げます。
上げます。
とはます皆様には、益々ご清祥の段東照宮の護持運営に付きまして多大東照宮の護持運営に付きまして多大なるご支援・ご協力を賜り御礼申しお慶び申し上げます。日頃は、伊賀献きます皆様には、益々ご清祥の段並を持ている。

子・崇敬者の意識が高まって来たこ のお祭り・神賑行事等が復活し、 ザ同時流行と気を許せない日々。 入りコロナ新変異株・インフルエン されなくなっていましたが、 自己判断となり隠れ感染症等報道も 禍世情は感染症も沈静化・マスクも 治針でありたいと願うところです。 しかしながら全国の神社では、 崇敬者の心の拠りどころ、 既に四年目に入った、 神社は祭司の厳粛に努め氏 九月に コロ 人生 氏元 ナ

ょうか。神社の役割は大きいのではないでしとのない日常、このような時にこそ害・地震・物価高騰と気が休まるこ

栄と皆様の幸福を御祈念申し上げまさまへ日々の感謝を祈ること、ご神徳の宣揚に努めて参りたいと存じます。



家運上昇の源流の川家の

徳川

卯年は、 躍のあらわれとも言われています。 また勢いよく波を飛び回る姿は飛 年から四八〇年経て、 生天文十一年十二月二十六日壬寅 暮れで何も振る舞うもの の家を訪れました。 国流浪中、 徳川家の遠祖松平有親・親氏が 和四 動物の兎があてられます。 年の昨年は、 信州の郷士林藤助光 令和五年癸 家康公ご誕 光政は、 が無かっ 年

> す。 では、 雪中で一羽の兎を捕らえ、 ています。 を作りもてなしたと言われて 吸い物を嘉例としたと伝えら 以来、 物を嘉例としたと伝えられ開運の基とし毎年正月に兎 正月の 幸運に恵まれた徳川 膳は豊かにしようと 11 13 ま 物 家

大切にされてきました家には家運上昇の守り神として、御祭神徳川家康公・御祖先松平つとして兎がお供えされます。倣い、元旦の歳旦祭には神饌の一

まつりの意味

りを願いった。神さまを招きそこにお鎮ま

二、神さまに接待申し上げる

活を築くことにあるのです。
まつりの精神は、私たち民俗の祖神、祖先に感謝の念をささげ、天地神、祖先に感謝の念をささげ、天地神、祖先に感謝の念をささげ、天地神、祖先に感謝の念をささげ、天地神、祖先に感謝の念をささが、天地神、祖先に感謝の念をささげ、天地神、祖先に感謝の念をささげ、天地神、祖先に感謝の念をさされる。

らです。
に神様の社が一つの町や村を単位氏神様の社が一つの町や村を単位

念がないのは、このお迎えをする準備おこたれなく余のお迎えをする準備おこたれなく余で家の内外を問わず清掃につとめ、て家の内外を問わず清掃につとめ、



令和5年NHK大河ドラマ 「どうする家康」 伊賀東照宮 期間限定御朱印授与について

せて頂きました。 ジナル御朱印帳とNHK大河 き、この度、 ドラマ 人公としたNHK大河ドラマ 人りの期間限定御朱印奉製さ 「どうする家康」放送につ 『どうする家康』 伊賀東照宮オリ ロゴ

集めて回る中で伊賀東照宮 ッズを作成しています。 印や朱印を集めています。 おり気に入ったデザインでグ や寺社仏閣を巡りながら御城 たデザイン活動もおこなって 今回、 持って伊賀地域の御朱印 私は歴史に興味があ 自身で作った朱印 り城郭 ま を 帳

令和五年 強世界 平 運和 の神さ 質の国 老川の里 朱印帳を目に留めて頂き、 ました。その中で私が作成した 参拝させて頂 宮オリジナル御朱印帳の製作 宮司様のご英断により伊賀東

印の製作依頼も頂戴しました。 眼され、あわせて期間限定御朱 が大きなブームになる事にも着 る寺社仏閣、 れる年であり、 ラマ『どうする家康』が放送さ 請を賜る事となりました。 折しも、 本年はNHK大河ド 家康公にまつわ ゆかりの地等

和田寛様をご紹介いただきました伊賀市在住のル御朱印帳奉製に携わって期間限定御朱印・オリジナ

御朱印帳奉製に携わって

オリジナ

新春より、

徳川家康公を主

完成し、開始時には地域情報紙少性・話題性を高めた御朱印が社とライセンス契約を締結し希 果で大きな反響となり幸先 いスタートとなりました。 や地元ケーブルテレビの取材: すべくNHKエンタープライ 『どうする家康』のロゴを使用 特に限定の朱印は大河ドラマ 0 効 ズ

ました。 中して製作活動を行う事 適切なご指導やご助言を賜り集 葉宮司様を始め関係の皆様より める事ができました。また、 祭神の御力により諸事順調に進 今回の奉製に関しましてはご が でき 稲

より深く感謝申し上げます。 貴重な機会を与えていただき心 間限定御朱印 今回はオリジナル の奉製に携わる 御朱印 帳 لح



限定御朱印授与のご案内

NHK大河ドラマ「どうする家康」限定御朱印授与 を、好評につき引き続き頒布致しておりますが、本年 12月放送終了にあわせ、12月末をもって終了と致しま お早めにお受け下さい。

伊賀東盟宮お守り ーホルター

> (女の子の忍者) (男の子の忍者) (表面 葵纹)



令和の御代の記念事業

標金額 千万円

本殿床工

工事概要

、道路沿い洋式水洗式工事ト 境内・古木伐採工事

右記 工事がいまだ、未着工であります。

皆様の一層のお力添えを賜りたくお願 ましたこと茲に厚く御礼申し上げます。 務所・ご神符授与所)には御協賛いただき 世情厳しい状況下ではありますが、 御崇敬者・御社様には先の改築工事 社

伊賀東照宮 年中行事

く機会が巡

ってき

1月15日 1月7日 月1日 小豆粥祭 新年祈祷 古札焼納祭 Iの神祭 月中

2月17日 4月17日 祈年祭 春季例大祭

2月3日

節分祭

湯立神事

厄除祈願

6月17日

水無月(夏越の大祓

夏越の大祓祭 崇敬者の大祓祭 神職

10 月 17 日 7 月 29 日 7月7日 6月30日 創始者月次祭 天命祭 七夕ききょう夏まつり

12 月 26 日 12 月 17 日 11 月 17 日 師走の大祓祭 崇敬者の大祓祭 秋季例祭 徳川家康公生誕祭 神宮大麻暦頒布始め祭 大国主命御神像拝受鎮座祭

11 月

新嘗祭

12 月 31 日

師走の大祓祭

除夜祭

仕となります。 りしており、 同、日本国と世界の平和、 祭)、27日、29日に行っています。 毎月1日、17日の祭儀斎行前には、 毎月の月次祭は、1日、17日、 26 日、 27 日、 御皇室の弥栄をお祈 29日は神職のみの奉 26 日 参列者 (月生誕

新陰流

御奉納にあたり

納いただきました。 六代目 津田武左右衛門正和様に新陰流兵法を御奉 さる春季例大祭(四月十七日)、新陰流兵法碧燕会 また伝承者としての思いを寄稿下さいました。 徳川家康公と新陰流の由緒につい

守信綱が流祖の日本を代表する流新陰流兵法は〝剣聖〞上泉伊勢 世を継承 であり、 は第三世を継承し、御三し、石舟斎の孫、柳生兵、柳生石舟斎宗厳が第二 家筆頭

> 尾張藩主 徳川

によるものと言っても過言ではあられてきたのは、徳川幕府の庇護 軍家の剣術指南役を務めました。 りません。 五男宗矩は、 術指南役を務め、 約五百年に渡る新陰流の伝承が守 柳生新陰流を興し また、 将

庫助利厳は第三

陰流、 選ばれたのは、 新陰流を徳川御三家の剣術 神をも包括するその理念こそ武士 いえる征夷大将軍であらせられ たのだと私は考えております。 が学び後世に伝えるべき物と考え この度、その家康公をお祀りす 徳川家康公は、 天孫の守護者である武士の精 並びにその分流である柳 単なる剣術でな 武家の統領 とも 南 生 新

とても不思議な感覚であり、 を奉納する感覚は、今までにない はございません。 の伝承者として、 舞をさせて頂けたことは、 武神でもある東照大権現 これ以 上 元に武芸 一の名誉 新陰流

る東照宮の例大祭において奉納演

石舟斎の剣

とになりました。 左衛門の名跡を襲名させて頂奉納演舞の直後に、六代目津 くこ \mathbb{H} 武

二)、聖武天皇が恭仁東北道を開き、

紫香楽宮の造営に着手されました。天

紫香楽にて大仏(東大寺)

伝承があります。天平十四年(七四行基が大光寺(小川)を開基したとの

聖武天皇の命により、

は、天啓であの御前で感じた人であり、 崇高堂で新陰流の指南をされて り授かった氏名と思いより弘 後は新陰流の伝承を東照大権現よ 十兵衛の弟子で伊賀の藩校津田武左衛門という人は、 励む所存です。 天啓であったと思います。 で感じた不思議な感覚と 今思えば、 葵の御 であ 流に 柳 紋 る 今 11 生

九一)、近衛家基が信楽に隠栖して高

の鋳造が進捗します。正応四年

山太郎と名乗りますが、これが多羅尾

代官の祖になります。近衛家出自の多

ております。 展を心から祈念申し上 この様な機会を下さった稲 賀東照宮の皆様方に感謝し 東照宮の益々のご発 一げます。 葉 宮

公の命令で、

伊賀上野と伊賀一体の社

寺を焼き尽くしました。その際、多羅

尾光俊は名張と小川から攻め込み、平楽

寺を多羅尾に持ち帰りました。平楽寺は

校裏の駐車場に平楽寺址があります。

この多羅尾光俊は余生を多羅尾代官

多羅尾光俊は、

本能寺の変の三年前に

起こった伊賀の乱において、

織田信長

尾光俊(子)の親子がいますが、子の 羅尾家子孫に多羅尾師俊(父)と多羅

六代目 新陰流兵法碧燕会 津田武左衛門正和

家康公伊賀越え

信楽町史年表によれば、 (その2) 歴史研究家 奉賛会会長

と考えられますが、別のルートを通っ ら桜峠、丸柱、音羽、石川、 為に伊賀越えの作戦会議を開き が逃げて来たのです。家康公が宿泊を 公は後に名馬の早馬を与えています。 す)。丸柱の宮田家は名家で徳川家康 植の徳永寺まで見ることが出来ま 山、神山神社から笹ケ岳下、 たとすると、小川城の中ノ城から神 曽河内、 り、多羅尾の六呂川から御斎峠で伊賀 して、小川城の中ノ城から馬道を通 衆と甲賀衆が集められました。 している時に、多羅尾光俊は家康公の ースが考えられます(小川城から狼煙 その後、小杉から柘植の徳永寺に向 野を見て、五瀬、大沢から伊賀の比 伊賀丸柱の土豪、 笹ケ岳から狼煙を上げると柘 音羽から石川、小杉を進んだ 家康公は上柘植宿の徳永 宮田家を道案内に 小杉のコ 南新田か 伊賀



許されるに至りました。 が与えられ、また、葵の御紋の使用 上、立葵紋を授けました。後に徳永寺 供応を喜び、 には歴代の藤堂藩主から十通の施入文 新たなる寺領を寄進した (中興開山崇徳)

四郎盛宗(鹿伏兎氏の祖)が建立したの居城であり、関氏六代盛政の四男、 と刻まれた碑と石灯籠が残っていま ました。 康公一行は勢州白子の浜にたどり着き 関町から亀山、金王道、江神社、三宅 す。これは臨済宗東福寺派のお寺です。 黒い山門を備えた神福寺が建っていま していた関五家の一つである鹿伏兎氏 在の鈴鹿市亀山市関町の大部分を領有 りますが、鹿伏兎城は南北朝時代に現 ります。次いで鹿伏兎(加太)城跡を通 川家康公が前を通ったと言い伝えがあ 石に描かれた二体のお地蔵さんで、徳 す。そして、一ツ家の地蔵。これは自然 神社には大神宮「天照皇大神宮月参」 そこから大和街道を行くと、 伊奈富神社、 福楽寺と進んで、 都美恵 家

た一寸八分の観音像を、白子江島の の思い出にと、鹿伏兎の守り神であっ 渡しを約しました。家康公は白子の浜 名乗る孫三という農夫が命に代えて舟 を求めました。これに応じて小川姓を は、尾州常滑の浜まで渡るための船便 って一農家の戸をたたいた家康公一行 場一帯に高札を立てました。暗夜を待 いほどの捜査を行い、農家をはじめ魚 捕るため、アリの這い出るスキ間もな は柴田勝家と通じて家康公一行を絡め 神戸城主であった織田信孝

崎 岡崎で家康公と別れた孫三は、

に頼んで、静岡の新白子藤枝に妻子を 御朱印を贈りました。小川孫三は知人 よ。諸役の負担を免除する」と認め、 領藤枝の宿に孫三の身を潜めさせ、天 そこで、白子の浜で献身の功を積んだ 踏むべく旅を続けて来たところ、長太 ました。 鈴鹿の白子に残り、後に尾崎家に嫁ぎ 呼び寄せましたが、 里をしのぶ白子と名づけて、永住せ 正十四年八月十四日に「この地をふる 孫三の心情に報いるため、家康公は所 かけられ、身辺の危険を感じました。 から桑名の地に至り、陸路故郷の土を 浦の街道で家康公を逃がした疑いが 長女だけは三重県

会が藤枝市白子町において交流会を開て静岡県藤枝市白子町の小川家と町内 鈴鹿市白子町の尾崎家と町内会、そし平成十八年十一月二十一日、三重県 きました。

あります。 幡神社となり、江島八幡神社には舟で 家、小川城主多羅尾光俊、 献した寺と人を挙げると、 江戸から渡ってきた百二十点の絵馬が 家康が大阪から岡崎に向かう間に貢 加太・神福寺、小川孫三、 宇治田原·遍照院、 丸柱・ 柘植・徳永 星田の平井 江島八 宮田

する事がたくさんあります。 作っています。まだまだこれから研究 を小川城に見立てて中ノ門、中ノ城を する際、伊賀越えの苦労を偲び、 家康公は江戸を開府し江戸城を建造 服部半蔵の功績を称え半蔵門を 城内

城へ無事到着しました。 孫三の水先案内で矢作川 から

内でした。 者一同一瞬息をのむ、 徳川家康公ご神前にて、 印授与が大きな反響をいただきました。 にえらばれた、新陰流兵法の技に、参列 会長 「どうする家康」放送につき、限定御朱 御奉納 誠におめでたくお慶び申し上げまして 新陰流兵法碧燕会 記念奉納として春の例大祭に、御祭神 和五年年明け いただき有難うございました。 からNHK大河ドラマ 会長 迫力と緊張感の境 御三家の指南役

山下真一様 横田正和

流兵法六代目津田武左衛門を襲名されま 横田正和様には、四月には新陰

今後益々のご活躍を御祈念申し上げます

伊賀東昭宮

T518-0219 三重県伊賀市老川1103-2 TEL 0595-55-2512 FAX 0595-55-2918 http://www.iga-toushougu.com/

七五三のご祈祷

年内受付けております。

※特別祈祷・各種ご祈祷致します。 ※各種出張祭を受付けております。 地鎮祭、解体祭、入居祓、竣工祭、宅神祭、 神棚の月参り等